

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 1 月 25 日
事業所名	医療法人 翔友会 グループホーム おり姫・東
事業所番号	2376000317
記入者名	職名 管理者 氏名 名古 美代子
連絡先電話番号	0564-56-3500

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立支援を図り、個人の尊重を大切にしている。	推進会議等を通じて、地域との交流を深めていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一回の全体会議・カンファレンスを行っている。拘束することなく常に注意を払いながら、利用者の立場に立って生活できるよう援助している。	拘束なしで生活できるよう、積極的に利用者様が動けるよう、日々の支援に心がけていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議・家族会などを行っている。家族の面会時には、近況報告を行っている。運営推進会議は地域の方も参加していただいている。	子供110番の看板を掲げ、いつでも自由に出入りしていただけるようになっている。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くのスーパーへの買い物、近くの散歩、犬の好太郎と散歩を行っている。	少しでも知っていただけるよう、近くの喫茶店へ少人数で何回かに分け、話すことのできるようにしたい。地域のボランティアの方にも、もう1つ2つでも声かけしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(お祭り)参加見物。町内会にも入っている。	地域の活動・行事等を知る為、回覧板等を回していただけるよう話してみたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>行事への参加の呼びかけ。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>全体会議等を通して、改善が必要と認められた所は、スタッフ全員が理解し改善に努めていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>意見1つ1つを成功につなげていきたい。家族の参加をもう少し増やしていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>意見等の内容に取り組み可能な質の向上につなげていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>制度をしっかりと理解して、家族の方達にも説明できるようにしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>言葉や態度での虐待にも注意をはらっている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約はおもに管理者が行っている。説明を十分に 行い、納得の上サインをいただいている。</p>	<p>他のスタッフも契約書・重要事項等に記入されている文章を理解し、家族からの質問に答えられるよう、今後取組んでいきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口・対応者をもうけている。意見・不満・苦情等に耳を傾け、迅速な対応に心がけている。</p>	<p>楽しく不満のないようすごしていただけるよう心がける。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に一度何に変わらない人でも家族あてに文章で送ったり、TEL連絡を行っている。</p>	<p>緊急時の報告・結果は、その都度家族へ状況の報告を入れている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会・行事等家族の参加を促し、意見を聞き話し合いの場をもうけている。</p>	<p>文章に書いてもらい、運営に反映させていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の全体会議にて意見を聞きまとめ実施</p>	<p>どんな事でも意見として出し合い、会議の内容を充実させ、スタッフの向上心を持って仕事に取り組んでいけるようにしたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者フリーの立場におり、スタッフの配置を考えている。</p>	<p>スタッフ不足の調整を今は何とか管理者が必要に入るが早急な募集を必要とする。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフ全員が利用者全員をよく理解し、ケアができるようにしている。		東西昼間は一緒に行動されている為、新人スタッフが18名を理解するまで少し時間がかかるが、利用者さんの写真ブックを見てもらい手順通りに動いてもらっている。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他で実施されている研修等の参加を促し職場で活かしている。		新人スタッフに対して、認知症に対してのコミュニケーション取り組み又移乗などの講習を実施し技術向上に努めている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム岡崎小部会又幸田町主催の介護サービス情報会等に出席、他の施設との活動報告を行っている。		管理者以外のスタッフが出席出来るようにしたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間一時間はゆっくりすごしてもらう。		月一回食事会が開かれるよう検討している。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者はスタッフ一人一人に声かけをし、小さな事でも受け入れ相談できるよう努めている。		スタッフは迷わずいつでも全員で相談・話し合い・納得の上ですすめている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>個人情報をお細かくまとめ、ケアしていく。入居される前に数回の顔合わせをすると同時にホームを見てもらう。</p>	<p>早く信頼関係ができるよう、足を運びきづいていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談時の要望・不要は聞き、その後の対応は電話対応もできるようにしている。</p>	<p>家族が混乱しないように話をすすめていく。家族の要望にそえるよう努力する。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じた対応をする。</p>	<p>その方に必要な支援は実施している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>いつでも施設見学ができるような状況にしている。</p>	<p>個人を尊重し安心できる環境をつくっていききたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>意見を尊重し、自由に生活していただく。常に介護される立場を考え、共に生活する介護を行っている。</p>	<p>言葉や行動から、その人の生活を支援していく。尊敬を表すことを忘れずに接する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会に来ていただき、共に支え合うケアを行っている。面会時に状態を話して問題点を共に解決していけるようにしている。		何かあれば様子を見に足を運んでいただく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の関係をスタッフが理解しフォローしている。家族会・行事への参加を促し共に楽しむ。		問題があれば改善できるように対応していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊は自由になっている。		気軽に訪ねていただけるような施設にしていきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ここの残存機能を把握し、お互いに助け合って生活できるようにしている。		利用者同士での助け合いをしながら生活できるようにしていきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院中に見舞い・心配事の相談等ができるようにしている。		イベントの案内状を送る。説明を十分行い、退所後のアドバイスを行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>強制しないように本人の希望や意向に沿うよう努めている。</p>	<p>無理なこと以外は本人の希望に沿えるようにしたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族から得た情報をシートに記入、生活歴などの内容を把握して、ケアにあたるようにしている。</p>	<p>なるべく生活の変化がないように心がけていく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>見守り重視で毎日の生活状態を記録し、把握。本人様らしく生活できるようにしている。</p>	<p>スタッフ間で情報交換。意見を出し合い把握に努めている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス計画担当者が介護計画を作成している。</p>	<p>出来ること・出来ないことを出し合い、介護計画の見直し。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直し、変化があった場合は、その状況に応じた対応をしている。</p>	<p>日々の生活の中で話し合っている事などは、次のプランにあげていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに記入している。		日々の生活はもちろん、小さな変わった事は個々のファイルに大きく変動した時は業務日誌にも記録している・
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医の往診。ボランティア慰問への参加で歌ったり踊ったりしている。		レク・体操等への全員の参加。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアがヶ月一回行っていける。		定期的ボランティアの協力で行っている。時には変わったボランティアをお願いしている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者が対応している。		他のスタッフも他の事業者との交流をもっていけるようにしていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報提供は定期的に送られたりしている。		地域とのネットワークを活かした支援をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期受診・往診、家族受診の支援も行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医・かかりつけ医による受診。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	状態変化・ケガ等があった場合、看護師に相談、不在時に連絡を取り指示に従う。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の状況を病院に行き看護師に聞いたうえで、施設での生活が可能ならば、早期退院に話をすすめている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に家族の方に意向を聞いている。		職員全員でケアに努めている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の重度化等に備え、細かい記録・申し送りの徹底で対応している。医師との話し合いでケア、家族への連絡もみつにしている。		医師との連絡は昼間はもちろん夜間は携帯番号も聞いている。往診も定期的にきてもらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の移り住む側へ情報を詳しく伝え、スムーズに行けるようにする。		小さな事まで情報提供し連携を心がけていきたい。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に合わせた声かけ対応に気をつけプライドに傷つけるような言動はしないようにしている。		言葉使いに注意する。個人情報の取り扱いはマニュアルに従い管理する。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の自己決定が出来るような声かけを行っている。言葉かけに注意をはらっている。		強制・強引にならないように、選択できる言葉かけ・行動をとる。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言葉かけは行うが、本人の意思に任せている。本人のペースに合わせ、又時間に追われないように、気をつけている。		本人のペースですごせるよう支援し援助していく。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回定期的に散髪を理容師さん来所で行っている。本人の希望も聞き美容院へ行く事もある。		着替えは自由に、本人の希望を重視。お化粧品も自由にやってもらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事はやれる方・やりたい方一緒に行っている。準備・片付け協力していただき一緒に行っている。		おやつ作り等を増やし、利用者と共に作る楽しみを知っていただきたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば、一人で買い物に出かけられたりしている。他の希望があるかたについては、一緒に付き添いで行ったりしている。お酒・たばこ自由だが、現在たばこを吸う人はいない。		一人でも出かける人が増えるよう支援していきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表にもとづき、個々の排泄パターンを把握し、不快のないように支援する。		便秘気味の方に漢方薬を服用、した時は排泄介助に十分気をつけている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけは行うが、本人の希望を尊重している。		自由に入浴ができる体制を整えていきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の習慣を重視し、就寝時間を強制せず入眠してもらっている。		車椅子使用者の方には午後居室にて臥床してもらっている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	要望があれば、速やかに支援している。強制することなく、できる事をしていただいている。		個人のできる事を把握して、援助内容も広くしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は施設で行っている。自分で持って管理されている方もいる。要望があればお金を渡して支払いをされている。		管理できる方には、本人に所持して有無を見極めていただいている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少人数での散歩・ドライブ・買い物に出かけている。本人の希望での外出もする。		常に玄関は開いている。自由に外庭には出してもらえるようにしてある。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族が中心になって、食事・ドライブ・墓参り・買い物に行かれている。外出・外泊は自由になっている。		全員が外出できるような体制、家族への呼びかけをしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できる。手紙も書かれ依頼があれば支援もしている。		電話は常にカウンターの所に置いてある。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に訪問できるようになっている。		誰が見えても自由に居室内ですごしてもらえるようになっている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドは必要に応じ、電動ベッドを使用してもらっている。		身の安全を考え、電動ベッド以外の方に対して、危険そうな方は床にも布団を敷いている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に自由に外底に出てもらえるようになっている。		見守りは必要だが、安全の為時には門扉を閉めての開放をしている。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が常にどこにいるかを職員個々で確認、チェック表にチェックをしている。		チェック表には特定の人のみチェック、他の利用者に対しての見守りも時間帯で行っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険に思える包丁・洗剤・漂白剤等は使用後は包丁等は鍵のある決められた所に、洗剤等は所定の場所に入れ鍵をかけしめよう。		最終点検・確認は遅番が行っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会・勉強会に参加。施設内でも講師を招き勉強会を行っている。		全職員が研修会・勉強会に参加できるように配慮していく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1～2回の実施訓練。		定期訓練を実施する。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練。		緊急時の対応、マニュアルチェック。地域の人との交流を深める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランを作成、家族に理解をいただく。		変わった事・気付いた事は報告・記入をする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りで状態の把握をしている。早期発見に努めている。情報は全員に伝わるようにしている。		申し送りの徹底。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的・用法・用量を把握し服薬介助をしている。		特定の職員が窓口になり服薬管理をし、目的・用法が変わった場合は管理者に報告をしている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき個人によって違うが、-3日になるとセンナ茶等を服用、排便を促している。		日々の中での体操で取り組んでいる。水分補給にも心がけている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、義歯の方には水洗い。夕食後は洗浄ポリデントにて消毒。		毎食後の口ゆすぎにはいそじんしょうどくをで行い、介助の必要の方には白湯で職員が行っている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じた、個人の食事量でチェック。水分補給は常に気をつけ、自由に飲めるよう支援している。		自由に飲めない方には、夏場は最低1500～2000cc、冬場は最低1000～1500cc飲めるよう援助する。飲み込みの悪い方にはゼリー状で補給。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・イソジンうがいを行っている。インフルエンザの予防接種。		トイレ排泄後の手洗い、食事前の手洗い、外出後の手洗い・うがい、徹底して行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食物は冷蔵庫にて保管。生ゴミはその都度片付ける。のこった食材はその日の内に処分する。		調理用品の消毒の徹底。おしぼり・タオル・皿拭きタオルは消毒・洗濯を行う。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設まわりには植木や花で囲み、農園畑では時節の物が植えてあり、いつでも見れるよう支援している。		外には犬の好太郎が飼われていて、近隣の小さな子供さん達がいつでも出入りできるようになっている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除当番によって徹底している。汚れている時は随時行う。玄関ロビー・フロアー・廊下等には個々の作品・行事等の案内・写真等が飾ってある。		フロア等には、この木何の木に季節にあった塗り絵を利用者さんの作品として貼り付けてみたり、季節の歌を貼りみんなで歌ったりしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファとテーブルでくつろぎの場になっている。廊下にもソファを置き一時がすごせるようになっている。		共用空間が清潔で居心地がよい場所であるよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者・家族が自由に持ち込めるようになって いる。本人・家族の希望に基づき居室作りをして いる。		新しい物より使い慣れた物を入れていただくよう 家族にも話をして相談しながら行っている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	雨降り以外は早番の窓開けから始まり、換気・室 温にも配慮している。冬場の暖房入れには必ずタ オルのぬれた物をかけ、乾燥に気をつけている。		不備が生じた時はすぐ事務局に連絡・点検をして もらっている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	必要な所には手すりがついており、バリアフリー で車椅子介助もできる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	新聞2部をとり自由に読めるようになっている。 日めくりは各フロアにかかげ、利用者さんの手で かえていく。		各自、できる事・できない事を把握、自立できる ように促していく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関外にはベンチを置き広い外庭の花などを観賞 している。		夏祭りなどのイベントで庭スペースを使い楽しん でいる。近々に樹木・桃の木を植える。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

学習療法・音楽療法を取り入れるなど、認知症に有効だと思われる事を実施。